

みどりのチェックシート 理解度テスト

(書面研修用)

「みどりのチェックシート解説書」をよくお読みいただき、持続可能な農業生産に向けた取組に関する理解を深めたうえで、こちらの理解度テストに取り組んでください。

「回答票」に必要事項及び回答を記載し、「解答・解説」を用いて見直しを行った上、市町村へご提出ください。修了証・受講証の代わりとして扱います。

令和5年4月
農林水産省農業環境対策課

化学合成農薬の使用量低減

問1 農薬ラベルに記載されているもののうち、守るべきものは、次のうちいくつありますか？

- ・適用作物
- ・使用回数
- ・使用量・希釈倍数
- ・収穫前日数

- A 1つ C 3つ
B 2つ D 全て

問2 最終有効年月を過ぎた農薬の処分方法として正しいものは、次のうちどれですか？

- A 産業廃棄物処理業者に処理を依頼する
B 期限の切れていない農薬に混ぜて使用する
C 薄めて農業用水や河川に流す
D 家庭ごみとして廃棄する

問3 農薬の使用記録の活用方法として正しいものはいくつありますか？

- ・事故が発生した際の原因調査
- ・取引先への使用記録の提示
- ・栽培工程の見直し
- ・防除方法の効率や効果の検証

- A 1つ C 3つ
B 2つ D 全て

問4 「物理的防除」に該当しないものは、次のうちどれですか？

- A 防虫ネットの利用 C 果実の袋かけ
B 抵抗性品種の導入 D 粘着板の設置

問5 農薬の誤使用防止対策として誤っているものは、次のうちどれですか？

- A 農薬を農薬保管庫外に放置しない
B すぐ使用できるように、鍵をかけずに保管する
C 毒物・劇物の保管は、行政の指導に従う
D 農薬は購入時の容器のままで保管する

化学肥料の使用量低減

問6 肥料の保管方法として正しいものはいくつありますか？

- ①雨に濡れない覆いがある保管場所を選ぶ。
- ②シートをかけるなど、日が当たらない工夫をする。
- ③直接土の上に置かず、地面からの湿気を防ぐ。
- ④農薬入り肥料、石灰窒素など農薬登録のあるものは、他の肥料等と区分して保管する。

- A 1つ C 3つ
- B 2つ D 全て

問7 肥料の使用記録の作成・保存に関して誤っているものは、次のうちどれですか？

- A ほ場名等、施肥した場所を記録する
- B 堆肥については記録しない
- C 散布機械の特定を含めて施肥方法を記録する
- D 記録は、保存性の高い媒体で適切な期間保存する

問8 堆肥施用量の減少等、農地土壌への有機物の施用量の減少によるデメリットとして考えられるものは、次のうちいくつありますか？

- ①炭素貯留機能の低下
- ②物質循環機能の低下
- ③水・大気の浄化機能の低下

- A 1つ C 3つ
- B 2つ D この中にはない

問9 環境保全機能向上に配慮した持続的な農業を推進するための土壌管理として誤っているものは、次のうちどれですか？

- A 堆肥や有機質肥料、緑肥等の有機物の活用
- B バイオ炭の活用
- C 化学肥料の過剰施用
- D 不耕起栽培や省耕起栽培の実施

問10 土壌中の有機物の役割として正しいものはどれですか？

- ①土壌の物理的、化学的及び生物的性質を良好に保つ
- ②土壌を単粒構造にする
- ③可給態窒素等の養分を作物等に持続的に供給する

- A ①と② C ②と③
- B ①と③ D すべて

温室効果ガス・廃棄物の排出削減

問11 省エネルギー対策として正しいものはいくつありますか？

- ・作業工程の見直しによる作業効率の改善
- ・機械・器具の適切な点検整備による燃費向上
- ・照明器具のLED電灯への変更
- ・ハウスの被覆の修繕

- A 1つ C 3つ
B 2つ D 全て

問12 燃料消費量の節減に資する対策として誤っているものは、次のうちどれですか？

- A アイドリングストップ
B エンジン回転数を最大にし手早く作業を実施
C 土壌水分時等の作業環境を考慮した作業の実施
D 機械・器具の適切な点検整備による燃費向上

問13 温室効果ガスの排出を削減する施肥方法として誤っているものは、次のうちどれですか？

- A 圃場全面に均一に施肥
B 根圏部分に施用する局所施肥
C 肥料成分の利用効率の高い分肥
D 肥料成分の利用効率の高い緩効性肥料の施用

問14 農業生産活動によって発生した産業廃棄物の一時保管、処分方法として誤っているものは、次のうちどれですか？

- A 農薬の空容器は一時保管場所を決め、農産物や他の資材を汚染しないように最終処分するまで保管する
B 農業用廃プラスチック類は野外で焼却して減量する
C 産業廃棄物事業者処理を委託する
D 地域に回収・処理サービスがあれば利用する

問15 プラスチック資材等の使用量または排出量を削減する方法として誤っているものは、次のうちどれですか？

- A 水田の排水時にプラ被膜殻も一緒に流す。
B 中長期展張フィルム等の導入により3年以上の長期利用を実施
C 生分解性マルチ等の生分解性資材を導入する
D 非プラスチック系資材を導入する

農作業安全

問16 農業機械作業に係る死亡事故について、正しいものは、次のうちどれですか？

- A 農作業死亡事故では、機械作業関連の事故は、割合が小さい
- B 機械作業に関連する事故によって、毎年100名程度死亡している
- C 機械作業に関連する死亡事故は、乗用型トラクター、歩行型トラクター及び動力刈払機の3機種がワースト3である
- D 機械作業に関連する死亡事故は、乗用型トラクター使用中のものが最も多く、機械の転落・転倒が最大の要因

問17 作業方法の改善を目的とした取組において、誤っているものは、次のうちどれですか？

- A 作業方法の見直しは、主要な者のみが内容を理解していればよい
- B 日頃から作業内容の確認を行い、危険が伴う作業工程については、関係者と相談しながら随時見直しを行う
- C 「ヒヤリ・ハット」を把握した上で、原因を分析し、再発防止策を講じる
- D 事故が発生した場合に備え、①緊急連絡体制、作業内容、作業場所等を関係者と共有し、②携帯電話等、緊急時に周囲に知らせるものを所持している

問18 事故を未然に防ぐための取組として、誤っているものは、次のうちどれですか？

- A 危険箇所を特定し、リスクの程度を勘案し、優先順位をつけて、改善や整備を行う
- B ほ場の出入り口の傾斜の改善、幅員の拡大等、農作業事故の原因となりそうなものを洗い出し、改善を行う
- C 対策が困難なものについては、危険箇所を示すマップを作成し、従事者や関係者と共有する
- D これまで事故を起こしたことはなく、常に意識しながら作業しているので、特に危険箇所の表示は必要ない

農作業安全

問19 適切な保護具及び服装の着用について、誤っているものは、次のうちどれですか？

- A 刈払機の使用時など、飛散物が当たる危険性のある作業では、フェイスガード、保護めがね等を着用する
- B 機械の使用に際しては、袖口の締まった服装、帽子等を着用する
- C 転落・転倒の危険性のある作業では、ヘルメットを着用する
- D 自脱型コンバインの手こぎ作業では、手袋を着用する

問20 乗用型トラクターが移動走行時に遵守すべき事項について、正しいものは、次のうちどれですか？

- A 農道を移動する場合は、短距離であれば左右のブレーキを連結する必要はない
- B 農道であれば交通事故の可能性は低いため、シートベルトを着用する必要はない
- C 夕方は一般道は交通量が多くなることから、作業を早めに切り上げて帰途に就いた
- D 公道走行するが、シートベルト及び安全フレームが装備されていなくとも問題はない

R 5 みどりのチェックシート理解度テスト【回答票】

必要事項及び回答を記載し、「解答・解説」を用いて見直しを行った上、市町村へご提出ください。
 修了証・受講証の代わりとして扱います。

市町村名

組織名又は法人名

氏名（法人の場合は代表者名）

| 問番号 | | 回答 | | | | 問番号 | | 回答 | | | |
|--------------|----|----|---|---|---|-----------------|----|----|---|---|---|
| 化学合成農薬の使用量低減 | 1 | A | B | C | D | 温室効果ガス・廃棄物の排出削減 | 11 | A | B | C | D |
| | 2 | A | B | C | D | | 12 | A | B | C | D |
| | 3 | A | B | C | D | | 13 | A | B | C | D |
| | 4 | A | B | C | D | | 14 | A | B | C | D |
| | 5 | A | B | C | D | | 15 | A | B | C | D |
| 化学肥料の使用量低減 | 6 | A | B | C | D | 農作業安全 | 16 | A | B | C | D |
| | 7 | A | B | C | D | | 17 | A | B | C | D |
| | 8 | A | B | C | D | | 18 | A | B | C | D |
| | 9 | A | B | C | D | | 19 | A | B | C | D |
| | 10 | A | B | C | D | | 20 | A | B | C | D |

R5 みどりのチェックシート理解度テスト【回答票】

必要事項及び回答を記載し、「解答・解説」を用いて見直しを行った上、市町村へご提出ください。
 修了証・受講証の代わりとして扱います。

解答

市町村名 千代田区

組織名又は法人名 環境保全型農業直接支払組合

氏名（法人の場合は代表者名） 環境 保

| 問番号 | | 回答 | | | | 問番号 | | 回答 | | | |
|--------------|----|----|---|---|---|-----------------|----|----|---|---|---|
| 化学合成農薬の使用量低減 | 1 | A | B | C | D | 温室効果ガス・廃棄物の排出削減 | 11 | A | B | C | D |
| | 2 | A | B | C | D | | 12 | A | B | C | D |
| | 3 | A | B | C | D | | 13 | A | B | C | D |
| | 4 | A | B | C | D | | 14 | A | B | C | D |
| | 5 | A | B | C | D | | 15 | A | B | C | D |
| 化学肥料の使用量低減 | 6 | A | B | C | D | 農作業安全 | 16 | A | B | C | D |
| | 7 | A | B | C | D | | 17 | A | B | C | D |
| | 8 | A | B | C | D | | 18 | A | B | C | D |
| | 9 | A | B | C | D | | 19 | A | B | C | D |
| | 10 | A | B | C | D | | 20 | A | B | C | D |

みどりのチェックシート理解度テスト【解答・解説】

| 問番号 | 解答 | 解説 |
|--------------|-----------------------------|--|
| 化学合成農薬の使用量低減 | 1 D 全て | <p>農薬を使用する際には、使用基準違反を防ぐために、使用予定の農薬のラベル等を基に情報を整理し、効果や経済性を検討して有効なものを選択します。</p> <p>「農薬取締法」では、容器又または包装にあるラベルの表示内容に従って使用することが定められています。実際の準備に当たっては、必ずラベルの表示内容を確認しましょう。特に、適用作物、使用回数、使用量、希釈倍数、収穫前日数には注意が必要です。また、使用上の注意事項や被害防止方法等についてもラベルの表示内容を確認しましょう。ラベルの表示内容を遵守していないと、農薬使用基準違反に問われたり、残留農薬基準値の超過により出荷した農産物を回収しなければならなくなる場合がありますので、注意しましょう。</p> |
| | 2 A 産業廃棄物処理業者に処理を依頼する | <p>最終有効年月を過ぎた農薬は、効果が保証されないだけでなく、使用基準が変更されている場合には、表示内容を守っていたとしても残留農薬基準値の超過になる可能性があるため、使用しないようにします。間違いを回避するために、最終有効年月を過ぎた農薬は明確に識別、分別して管理し、できるだけ早急に廃棄物処理業者へ依頼すること等により適正に処分しましょう。</p> |
| | 3 D 全て | <p>農薬使用記録は、事故が発生した際の原因調査や、取引先からの求めに応じて証拠を提示するなど、事故や要請に対応するために必要です。さらに、栽培工程の見直し、防除方法の効率化や効果の検証などにも活用でき、農場の経営上、とても重要な記録です。保存性の高い媒体で適切な期間保存し、農場経営の見直しに活用しましょう。</p> |
| | 4 B 抵抗性品種の導入 | <p>IPMの取組方法としては、「予防」「判断」「防除」の3つの取組を基本に効果的・効率的な防除を行います。「防除」の取組内容は以下のとおりです。</p> <p>「防除」の取組</p> <p>IPMでは、化学的防除だけでなく、「物理的防除」「生物的防除」など多様な防除方法を組み合わせることを基本としています。物理的防除としては、防虫ネットの使用、果実の袋かけ、粘着版の設置などが例としてあげられます。なお、抵抗性品種の導入は、「防除」ではなく「予防」の取組に該当します。</p> |
| | 5 B すぐ使用できるよう、鍵をかけずに保管する | <p>農薬の誤使用を防ぐためには、作業者が保管庫から間違った農薬を取り出して使用することがないようにすることが必要です。具体的な保管の仕方としては、下記のような方法があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農薬を農薬保管庫外に放置しない。 ・農薬保管庫の鍵を農薬に関する責任者が管理し、常に施錠を行い、責任者の許可なく農薬を持ち出せないようにする。 ・毒物・劇物の保管については、行政の指導に従う。具体的な指示のない場合は、棚を分ける、別の保管庫に入れるなど他の農薬と明確に区分できる場所に保管する。 ・農薬は購入時の容器のまま保管する。誤飲の原因となるためペットボトル等、飲料品の容器への移し替えは行わない。 ・最終有効年月を過ぎた農薬は誤使用を防ぐために区分して保管し、廃棄物処理業者へ依頼すること等により適正に処分する。 |

みどりのチェックシート理解度テスト【解答・解説】

| 問番号 | 解答 | 解説 | |
|------------|----|----------------|---|
| 化学肥料の使用量低減 | 6 | D 全て | <p>肥料等（葉面散布剤、堆肥、土壌改良材、微生物資材等も含む）を適切に保管しないと、肥料の固化、劣化が進み、包装が傷んで漏洩する、崩れやすくなる等のリスクが高まります。その結果、農産物や環境を汚染する危険性が高まるとともに、作業者の安全にも影響があります。こうした事故のリスクを低減するため、以下のようなことに取り組みます。</p> <p>①肥料が日光、霜、雨、外部から流入する水の影響を受けないようにするため、雨が吹き込んできたり、雨漏りしたりしない覆いがある保管場所を選びます。肥料袋に直射日光が当たると袋が劣化して破れる可能性があります。シートをかけるなど日が当たらない工夫をします。</p> <p>②入出庫のたびに清掃するなど、肥料等の保管場所はごみやこぼれた肥料がないようにし、その都度、袋等の劣化がないか確認します。</p> <p>③地面からの湿気を防ぐため、肥料等をパレットの上に乗せるなど直接土の上に置かないようにします。</p> <p>④農薬入り肥料、石灰窒素など農薬登録のあるものは、他の肥料等と区別して管理します。</p> |
| | 7 | B 堆肥については記録しない | <p>肥料の使用状況は、作物の生育状況と比較することにより次作の施肥設計の参考とすることができます。農産物の品質に問題（生育不良等から生じる、とろけ、腐り、硬化や着花・着果不足等）が生じた際には、使用記録を確認することにより原因追及の一助とすることができます。</p> <p>これらの目的のために、以下の項目に関する肥料等の使用記録を作成し、保存します。</p> <p>①施肥した場所（ほ場名等） ②施肥日 ③肥料等の名称 ④施肥量 ⑤施肥方法（散布機械の特定を含む） ⑥作業者名</p> <p>肥料等の使用記録には、農産物の生育に係る資材を全てす全て記載します。農薬に含まれない葉面散布剤、堆肥、土壌改良材、微生物資材等についても記載しましょう。</p> |
| | 8 | C 3つ | <p>農地の土壌は農業生産の基礎であり、地力を増進していくことは農業の生産性を高め、農業経営の安定を図る上で極めて重要です。</p> <p>また、地力の増進は、地球温暖化の進行等が顕在化する中、気候変動の影響を受けにくい安定的な農業生産基盤の確保といった観点からも重要です。</p> <p>近年、農地土壌への堆肥等の有機物の施肥量の減少等により、農地土壌が有する作物生産機能のみならず、炭素貯留機能、物質循環機能、水・大気の浄化機能および生物多様性の保全機能の低下が懸念されています。</p> <p>土づくり等を通じた化学肥料、化学農薬の使用量低減や、農業が有する環境保全機能の向上に配慮した持続的な農業を推進するため、有機物を適切に利用し土壌管理を行うことが重要です。</p> |
| | 9 | C 化学肥料の過剰施用 | <p>土壌中の有機物は、土壌の物理的、化学的及び生物学的性質を良好に保ち、可給態窒素等の養分を作物等に持続的に供給するために重要な役割を果たしています。</p> <p>一方で、土壌中の有機物は徐々に減少していくものであるため、営農の中において土づくりが重要となります。</p> <p>土づくり等を通じた化学肥料、化学農薬の使用量低減や、農業が有する環境保全機能の向上に配慮した持続的な農業を推進するため、以下のような土壌管理を適切に行うことが重要です。</p> <p>□堆肥や有機質肥料、緑肥等の有機物やバイオ炭を土づくりに有効活用するように努める。 □ほ場に残すと病害虫がまん延する場合などを除き、作物残渣等のすき込みによる土づくりに努める。 □樹園地については、堆肥の施用が困難な場合、草生栽培や敷きわらによる有機物の供給に努める。 □適地においては不耕起栽培や省耕起栽培の実施により、土壌への炭素貯留や生物多様性保全に努める。 等</p> |
| | 10 | B ①と③ | <p>土壌中の有機物は、土壌の物理的、化学的及び生物学的性質を良好に保ち、可給態窒素等の養分を作物等に持続的に供給するために重要な役割を果たしています。農場で発生した植物残渣をすき込んだり、堆肥化して利用することは土壌の有機物を増やすことにつながります。</p> <p>有機物を土壌中に混入すると土壌生物の働きによって土壌の団粒構造が形成されます。土壌の単粒構造とは土壌粒子に結びつきがない構造のことであり、通気性、排水性、保水性が悪く、根の生長が悪くなります。</p> |

みどりのチェックシート理解度テスト【解答・解説】

| 問番号 | 解答 | 解説 | |
|-----------------|----|---------------------------|--|
| 温室効果ガス・廃棄物の排出削減 | 11 | D 全て | <p>農業生産活動でも、化石燃料や電力を消費すれば温室効果ガスである二酸化炭素が発生します。温室効果ガスの削減のために、エネルギーの使用量を確認・記録した上で、自らの農場で可能な省エネルギーの取組を検討しましょう。</p> <p>省エネルギーに留意した農業機械・装置、車両、施設の適切な使用には、以下のような取組があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> □燃料消費量の節減に資する農業機械・車両の適切な使用（アイドリングストップ、適切な走行速度やエンジン回転数の調整での作業実施、適切な土壌水分時の作業実施等） □作業工程の見直しによる作業効率の改善（運搬ルート見直し等） □機械・器具の適切な点検整備による燃費向上 □不要な照明のこまめな消灯 □冷蔵庫や暖房の温度設定の最適化、ハウスの被覆の修繕 □農業機械、車両、施設・設備を更新する際は、省エネルギー性能の高いものを選択（照明器具のLED電灯への変更、ハイブリッド車両の導入等） □再生可能エネルギー（太陽光発電、風力発電等）への切替え |
| | 12 | B エンジン回転数を最大にし手早く作業を実施 | <p>農業生産活動でも、化石燃料や電力を消費すれば温室効果ガスである二酸化炭素が発生します。その中で、省エネルギー（温室効果ガスの発生抑制）に留意した農業機械・装置、車両、施設の適切な使用には、以下のような取組があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・燃料消費量の節減に資する農業機械・車両の適切な使用（アイドリングストップ、適切な走行速度やエンジン回転数での作業実施、適切な土壌水分時の作業実施等） ・作業工程の見直しによる作業効率の改善（運搬ルート見直し等） ・機械・器具の適切な点検整備による燃費向上 ・不要な照明のこまめな消灯 ・冷蔵庫や暖房の温度設定の最適化、ハウスの被覆の修理修繕 ・農業機械、車両、施設・設備を更新する際は、省エネルギー性能の高いものを選択（照明器具のLED電灯への変更、ハイブリッド車両の導入等） ・再生可能エネルギー（太陽光発電、風力発電等）への切替え |
| | 13 | A 圃場全面に均一に施肥 | <p>根圏部分に施肥する局所施肥や肥料成分の利用効率の高い分肥、肥料成分の利用効率の高い緩効性肥料の施用といった手法により、一酸化二窒素の排出を削減することができます。一酸化二窒素は、二酸化炭素の298倍温室効果があるとされています。</p> |
| | 14 | B 農業用廃プラスチック類は野外で焼却して減量する | <p>農業も事業活動であり、排出される廃棄物の削減に努める必要があります。廃棄物は処分するまで適切に保管し、処理しないと、農産物の汚染原因になります。また、有害生物の侵入や発生が起こった場合、食品安全上のリスクにもなります。特に農薬の空容器から農薬成分が付着することを防ぐため、農産物等と接触しない場所に一時保管する等の対策を講じます。</p> <p>他の廃棄物も、一時保管する場所を決め、他の資材との接触を防ぎ、散乱しないように管理します。廃棄物の把握、減量及びリサイクル、処分まで分別して一時保管を徹底し、農場の衛生状態を良好に保ちます。</p> <p>事業活動により発生した廃棄物は、産業廃棄物として適切に処分することが求められます。廃プラスチック類の野外焼却は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の不法焼却に該当し、罰則の対象となります。</p> |
| | 15 | A、水田の排水時にプラ被膜殻も一緒に流す | <p>近年、プラスチックごみによる海洋汚染が国際的な課題として注目されています。農業生産でも、農業用ハウス、マルチのほか、肥料成分を合成樹脂等の膜でコーティングした被覆肥料など生産資材としてプラスチックを使用していることから、適切に対応する必要があります。</p> <p>以下の取組を検討し、使用量又または排出量を削減しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> □中長期展張フィルム等の導入により3年以上の長期利用を実施 □生分解性マルチ等の生分解性資材や、非プラスチック系資材の導入 □慣行的にプラスチック被覆肥料を使用している場合、プラスチックを使用していない肥料への代替など被膜殻の流出防止・削減対策の実施 <p>特に、水田で慣行的にプラスチック被覆肥料を使用している場合は、被覆殻がほ場排水などにより意図せず河川等の環境に排出される可能性があることから、例えば、以下のような取組を実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> □浅水代かきや、代かき・田植え前の水位調節を自然落水で実施 □排水口に網を設置する等の被膜殻の流出防止・削減対策の実施 |

みどりのチェックシート理解度テスト【解答・解説】

| 問番号 | 解答 | 解説 |
|-----|---|---|
| 16 | D、機械作業に関連する死亡事故は、乗用型トラクター使用中のものが最も多く、機械の転落・転倒が最大の要因 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年の農作業死亡事故を要因別にみると、「農業機械作業に係る事故」が186人（68.9%）と最も高い状態が継続しており、農業機械作業の安全対策の強化が必要です。 ・農業機械作業に関連する事故のうち、乗用型トラクターに係る事故が81人と最多となっています。その中でも「機械の転落・転倒」による死亡者が53人と最多で、乗用型トラクターの転落・転倒事故対策が引き続き重要となっています。 ・農業機械作業に関連する事故については、乗用型トラクターのほか、歩行型トラクター、農用運搬車、自脱型コンバイン、動力防除機による死亡事故が多い傾向にあります。 |
| 17 | A 作業方法の見直しは、主要な者のみが内容を理解していればよい | <p>作業改善に向け、以下の事項を日頃から把握・注意しておきましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業手順、作業環境や危険箇所についてチェックを行い、作業方法の見直しや作業現場の改善、危険箇所の表示等、関係者で情報を共有する。 ・危険性の高い作業を行う場合は、作業者の負担の軽減や危険な状況を知らせる補助者を配置する等、一人で作業は行わないようにする。 ・やむを得ず一人での作業を行う場合には、作業内容や作業場所を家族等に伝えておく、携帯電話を必ず所持する等、事故が発生した際に早期発見のために必要な措置を行う。 ・作業受委託を行う場合は、受託者に対して危険箇所や注意事項等について事前に説明し、事故防止に努める。 ・事故が発生する可能性が高かったと感じた「ヒヤリ・ハット」や軽微な事故事例は、危険要因を把握し、対策を講じることができる貴重な情報なので、再発防止や未然防止に役立てる。 ・事業場内で発生した軽微な負傷を含む事故事例やヒヤリ・ハット事例について、事業場の実情を把握し、他の従事者と共有する。 ・把握した事例については、原因を分析し、できるだけ迅速に必要な対策を講じるなど、再発防止策を講じる。 |
| 18 | D これまで事故を起こしたことはなく、常に意識しながら作業しているので、特に危険箇所の表示は必要ない | <p>事故を未然に防ぐ為には、以下の事項の徹底が重要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業環境において、どのような危険要因（危険な場所、危険なもの、危険な状態）があるか、どの程度危ないのかを把握し、作業環境を改善・整備したり、掲示等により注意喚起を行う。 ・危険箇所を特定し、作業事故の要因と考えられるものについては、リスクの程度を勘案し、優先順位をつけて、改善や整備を行う。 ・ほ場の場合には、出入口について傾斜を緩く、幅を広くすること、耕作道の曲がり角は隅切りにし、路肩や側溝はわかりやすくするために草刈りを行い、路肩が軟弱な場合は補強を行う。 ・自ら所有していないほ場や公共の道路等のために改善できない場合は、危険箇所等に関する情報を従事者だけではなく関係者と共有する。 ・作業環境の危険箇所を示すマップの作成、現場に路肩や迂回路を示す標示版を設置する。 |
| 19 | D 自脱型コンバインの手こぎ作業では、手袋を着用する | <p>作業服は、適切に着用しないと機械の回転部分に巻き込まれたり、引っかかって作業事故につながるおそれがあり、保護具も、正しく装着しないと機能が発揮されないため、作業に適した服装や保護具の着用は、作業事故から従事者の身を守るために必要不可欠です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業内容や作業環境に応じ、安全に配慮した服装や保護具等の着用をルール化し、すべての従事者は、正しく着用又は装着する。 ・保護具は、その機能が維持されているか、使用前後の点検、日常の保守管理を実施する。 ・刈払機を使用する際は、フェイスガードやエプロン、安全靴、防振手袋などを着用する。 ・機械の使用に際しては、回転部に髪や衣類等が巻き込まれないよう、髪の毛をまとめたり、袖口をしっかり締めるなど、服装にも十分注意する。 ・自脱型コンバインで手こぎをする時には、手袋を着用しないなど、適切に保護具の着脱を行う |
| 20 | C 夕方は交通量が多くなることから、作業を早めに切り上げて帰途に就いた。 | <p>乗用型トラクターを操作する際に、以下に注意し、安全に操作しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機械の転倒、転落による事故に備え、安全キャブまたは安全フレームが装備された乗用型トラクターを使用し、シートベルトを着用する。 ・機械を始動、運転するときには、前後左右をよく確認し、付近に人を近づけないこと。また、エンジンの始動は、必ず運転席に座り、変速カバー、PTO変速レバー、各種操作レバーが中位位置にあり、駐車ブレーキがかかっていることを確認した上で行う。 ・左右独立ブレーキの付いた機械では、走行、登降坂、畔越え時には、左右のブレーキペダルを連結する。 ・道路走行時は、作業灯を消灯する。 ・作業機への巻き付き、詰まり等を除去する際には、エンジンを停止し、作業部の停止を確認した上で行うこと。また、油圧式の昇降部を上げている場合は、必ず昇降部落下防止装置を固定しておくこと。 |